



28代庄之助との交流(上)

記念館の8ミリカメラ

横綱柏戸記念館(鶴引地域三千刈)の収蔵庫に旧式の8ミリカメラが保管されている。機器本体とともにリールに巻かれたフィルムが何巻かある。それは木村林之助時代の立行司・第28代木村庄之助(本名・後藤悟)が現役時代の柏戸を撮影したものだ。

昭和35(1960)年名

古屋場所後に柏戸は大関昇進し、当時高価だったアサヒペンタックス製が贈られた。「好きに使ってください。自分は得意じゃないんで」と柏戸から譲られた林之助にアイデアがひらめい



人気力士となった柏戸の本場所土俵やその素顔などを林之助時代の庄之助は8ミリビデオに収めた

ていた。十両格だった自分の裁きを終え、装束を脱ぎシャツに着替えた後、蔵前国技館内の向正面側にある放送席に移動した。そして、仕事の合間、幕内後半戦の柏戸の姿を撮影した。

向正面側で取組撮影

「カメラを使って大関の相撲を撮影するよ。記念になるし、取り口の参考になるかもしれない」。声の良さが買われて当時幕内土俵の場内アナウンスを担当し

た。その頃大相撲はNHKだけが買われて当時幕内土俵の場内アナウンスを担当し

CM入る相撲中継

途中でCMが差し込まれる民放は芸能人のゲスト出演があつて華やかさを醸し出した。人気俳優、流行歌



第28代木村庄之助

同時生中継していた。テレビ草創期だけに各局とも1日を通しての番組自体の蓄えが十分ではない。そのため平日午後4〜6時の生放送のスポーツ番組として、はまったようだ。今の言葉で言えば、コンテンツ・ソ

フト不足を補つものだった。日本テレビ、TBSが長らく放送したが、フジテレビ、旧テレビ朝日(NET)と昭和30年代中盤は全民放局が放送した。NHKは堅実な構成で取組と解説中心だった。

戦前、春秋園事件と言われた大相撲改革運動のリーダーだった天竜三郎や横綱経験者の東富士らが民放局の解説を務めた。こうした各局の生放送の合間に林之助の力士紹介、「東方大関

柏戸、山形県東田川郡鶴引村出身、伊勢ノ海部屋」など場内アナウンスがテレビのスピーカーを通じて聞こえていたのだ。

柏戸記念館は収蔵資料の整理を課題に挙げており、林之助撮影の柏戸映像もデ

手をはじめ当時全盛だったクレイジーキャッツの植木等ら芸能人が引つ張り出された。ノリとしてはフジテレビ系で毎年初場所後行われる「大相撲トーナメント」的な作り方。ただ同トーナメントは巡業扱いの花相撲。真剣そのものの本場所を6年前の民放がどう競い合っ

て放映していたのか興味深い。しかし録画テープは残っていないのか、見る機会に恵まれない。

戦前、春秋園事件と言われた大相撲改革運動のリーダーだった天竜三郎や横綱経験者の東富士らが民放局の解説を務めた。こうした各局の生放送の合間に林之助の力士紹介、「東方大関

柏戸、山形県東田川郡鶴引村出身、伊勢ノ海部屋」など場内アナウンスがテレビのスピーカーを通じて聞こえていたのだ。

助の力士紹介、「東方大関柏戸、山形県東田川郡鶴引村出身、伊勢ノ海部屋」など場内アナウンスがテレビのスピーカーを通じて聞こえていたのだ。

KCTが番組制作

○：柏戸記念館には「庄之助が語る柏戸」というビデオコーナーがある。KCT(旧鶴引ケーブルテレビ)が2002年にインタビュ

ー、番組にしたもので、庄

助の面前で全力士のシノ名を言い当てて晴れて合格。男だけでも5人兄弟だったので「本人が好きなら、その道を進めばいい」と父は快く送り出してくれた。大きな体格の力士と好対照の妙もあって豆行司が入門していた。

9歳で入門の豆行司

悟少年はわずか9歳で角界入りした。鶴岡市十日町(現本町一丁目)の歯科医・赤松時一郎家の四男(5男3女)として誕生。幼少から相撲好きで小柄であった分、学校では行司をやらされたが非常にうまい。その素質を感じ、朝陽五小時代の担任・井上孝礼先生が松翁こと20代木村庄之助に入門願いを書いた。昭和12年、横綱武蔵山一行の出海一門の鶴岡巡業が行われ、面会がなかった。十両以上の顔番付を見せたら、庄之

助の面前で全力士のシノ名を言い当てて晴れて合格。男だけでも5人兄弟だったので「本人が好きなら、その道を進めばいい」と父は快く送り出してくれた。大きな体格の力士と好対照の妙もあって豆行司が入門していた。

こうして翌13年春上京した。くしくも柏戸が生まれたのが同じ13年。そして16年後、10歳年下の柏戸が入門してきた。一門が違い、2人はすぐに知り合いになったわけではないが、同郷のよしみで互いに近い存在になった。

敬称略 富樫 嘉美

之助が40年に及んだ交友を語っている。他に柏戸本人のインタビュ、柏戸物語と併せて3本の作品が自由に見られる。同記念館は入場無料。

毎週火曜日付に掲載